

ZEPHYROS

ゼフュロス No.61

The National Museum of Western Art, Tokyo 国立西洋美術館ニュース

2014年11月20日発行

ISSN1342-8071



国立西洋美術館の
2013年度収蔵作品について

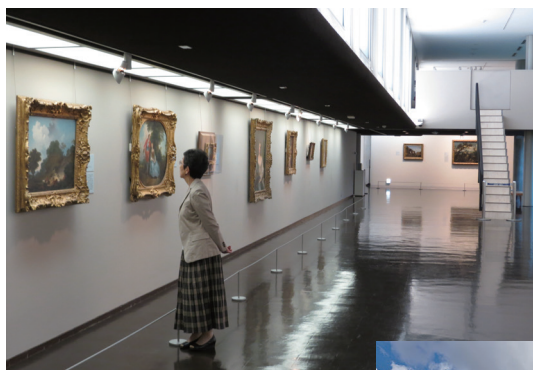
美術館という機能について



二十数年ぶりに戻ってきた美術館は、昔と比べてすべてがきっちり組織され、学芸も役割分担が明確にされ、作品管理も資料整理も、展示も購入もさまざまなことがシステム化されて、その進歩に目を見張った。何しろ私がいた頃の美術館は、各自が好んだ分野の仕事をやっている状態で、誰もやらない仕事というのもあり、そこはすっぱり抜けた状態になっていたのだ。大きく変わったのは、教育普及と研究資料センターで、前者はないに等しかったし、後者はもっぱら館内の学芸員だけが使うために整備されていた。外部の使用に対しては、何か悪いことでもしているかのように秘匿され、厳しく人を入れないよう担

当から言い渡されていた。立派なセンターができ、週3日公開できるようになって（注）、隔世の感がある。

日本の美術館としては恵まれている点も多く、主導的な立場にあると自負できるのだが、「まだまだ」と思ったのはロンドンのナショナル・ギャラリーを映画化したフィルムを見てからである。これは新年に一般公開されるそうなので、是非見て頂きたい。たくさんのスタッフがそれぞれ自分の分野を極めようと、日々討論し模索し観客に語りかける映像である。豊かな常設展を無料で公開し、ロンドンを訪れる観光客の多くが足を運んでいると思われるナショナル・ギャラリーが、「どうやってさらに



ナショナル・ギャラリー（ロンドン）



この館を人に知られるようにするのか「自分たちの研究の成果をどうやって観客と分かち合うか」といった課題について真剣に討議しているのである。

館内の諸部門は西洋美術館とは比べ物にならないくらい豊かだ。表の展示室には豊富な名作がびっしりと掛っていることはよく知られているが、裏には素晴らしい修復室がある。展示のスタッフや教育普及部門、アドミニストレーション、素描室、リサーチ部門などがある。ここには8月末に行く機会があったが、天井まである重厚な書架に豊富な資料、スタッフも充実していて、うらやましい限りだ。しかしこのような環境があっても、彼らにとってはま

だまだ理想からは遠い。そうした意味では、当館と共通する部分も多い。やりたいこと、やらなければならないことは、尽きないのである。

結局、美術館の活動の根本は、施設や予算でなく、スタッフの情熱にある、とありきたりの結論ではあるが納得した次第である。

（国立西洋美術館長 馬淵 明子）

（注）研究資料センターは利用者登録制の研究施設です。
利用手続きは国立西洋美術館ホームページ
(<http://www.nmwa.go.jp/jp/education/library.html>) をご確認ください。

2013年度収蔵作品について

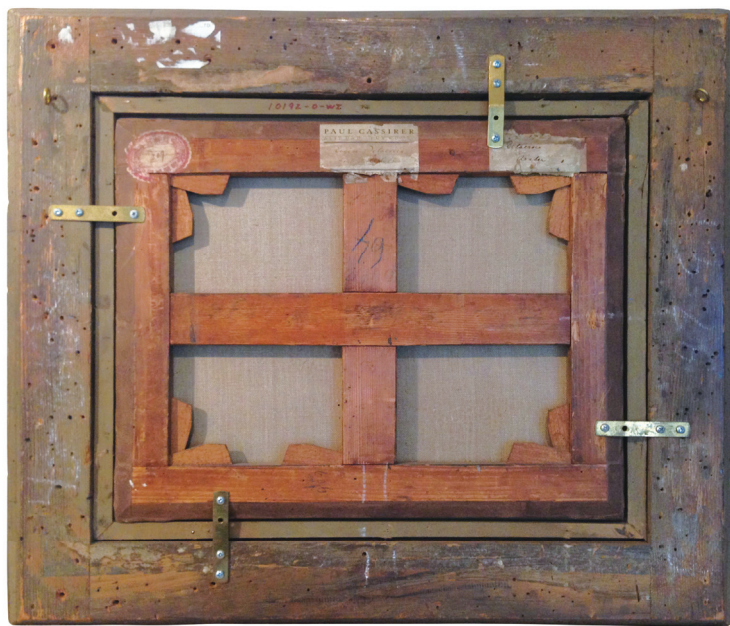


図1 カンヴァス裏

アフリカから小アジアにかけて、いわゆるオリエント／東方の国々の人々や風物を描き出すオリエンタリズム絵画は19世紀初頭に大きな流行を見ます。フランス・ロマン主義を代表する画家ドラクロワにとっても一貫して重要な画題となりました。

《馬を連れたシリアのアラブ人》では、洞窟のような岩場を背景にして馬を連れたオリエント風の衣装の男性が描かれています。ふと呼ばれたかのように視線を画面のこちら側へと向ける男と馬。画面左手前の地面には赤い鞍が置かれ、右手の遠景には2人の騎手の姿も見えます。穏やかな水色の空と暗色の岩山を

背景に、馬の毛並の白の諧調や、人物の黄色いマント、その頭布や靴先の朱色がよく映えつつ、最前景の馬具の深紅が画面全体を引き締めています。勇壮な騎馬戦などを扱った作品とは異なる穏やかな異国の眺めです。

ドラクロワは、1832年にフランス政府の外交使節団に随行して北アフリカを旅行し、強烈な色彩や異国情緒ある風物に魅了されて、旅先で数々のスケッチを残したことはよく知られています。一方、この名高い旅の前、すでに1820年代から、友人の東方コレクションや文学などの助けを得て、物語的、空想的要素の強い東方主題の作品の数々を手がけて



ウジェーヌ・ドラクロワ
《馬を連れたシリアの
アラブ人》1829年頃(?)
油彩/カンヴァス
(表紙も)



図2 カッシーラー画廊のシール



図3 十五銀行のシール

いました。

本作は、関連素描との比較などから、1832年の旅より以前に、若き日のドラクロワが描いたものと推測されます。1849年のサロンに出品された際には、馬の頭部の描き方への批判の一方、繊細なコントラストを用いた色彩が賞賛を集めました。

また、この作品はかつて、松方幸次郎のコレクションにあったという点でも、当館にとっては重要な意義を持っています。本作は、19世紀半ばに画家ディアス・デ・ラ・ペーニャに購入された後、数々の著名なコレクターの手に渡り、1922年頃に松方の所蔵となりました。

1922年に大阪で開かれた「松方幸次郎氏所蔵泰西名画展覧会」に出品されています。現在、カンヴァスの裏には(図1)、本作品の購入元であろうカッシーラー画廊のシール(図2)や、1927年以降、散逸が始まった松方コレクションが保管されていた十五銀行のシール(図3)など、作品が歩んできた歴史を語る興味深い足跡を見ることができます。

(国立西洋美術館主任研究員 陳岡 めぐみ)

《馬を連れたシリアのアラブ人》は以下の日程で開催の「ボルドー展 -美と陶酔の都へ-」でご覧いただける予定です。
福岡市博物館 2015年1月31日(土)~3月29日(日)
国立西洋美術館 2015年6月23日(火)~9月23日(水・祝)

EVENT イベント

美術館でクリスマス

クリスマスにちなみ、次のプログラムを実施いたします。ぜひご参加ください。

期日：2014年12月13日(土)、14日(日)

● クリスマスキャロル・コンサート

クリスマスにちなんだ歌のアカベラのコンサートです。
予約不要。入場無料です。自由にお立ち寄りください。

時 間：①11:00～11:40

②15:00～15:40

※曲目は2回とも同じです。

場 所：本館ラウンジコーナー



● 10分トーク・クリスマスバージョン

クリスマスやキリストに関連する作品について、当館
ボランティア・スタッフが約10分間解説します。

時 間：①12:00～12:10

②13:00～13:10

③14:00～14:10

場 所：常設展示室

*参加無料。ただし、常設展観覧券が必要です。



● セイビ・パズル クリスマスバージョン

国立西洋美術館の作品がパ
ズルになりました。初級編と
上級編があります。予約不要。
自由にお立ち寄りください。



時 間：10:00～16:00

場 所：常設展示室(新館2F休憩室)

*参加無料。ただし、常設展観覧券が必要です。

常設展

一 般 430 円 (220 円)

大 学 生 130 円 (70 円)

*小・中学生・高校生および18歳
未満、65歳以上、心身に障害のあ
る方および付添者1名は無料(入
館の際に学生証または年齢の確認で
きるもの、障害者手帳をご提示くだ
さい。)

* () 内は20名以上の団体料金

※イベントの内容等は変更となる場合があります。

最新の情報は国立西洋美術館ホームページまたはハローダイヤル(03-5777-8600)でご確認ください。

おすすめ本

展覧会カタログ

2015年1月12日(月・祝)まで開催中の「日
本・スイス国交樹立150周年記念 フェル
ディナント・ホドラー展」のカタログです。

2,400円(税込み)



好評
販売中

Museum shop

ミュージアム
ショップ

新商品

●付箋セット 考える人 540円（税込み）

角度の違う3パターン「考える人」の付箋セットです。

パソコンにメモを貼ったり、スケジュール帳やノート・雑誌などにしおりとして挟んだり、幅広くお使いいただけます。



●トイメモ 考える人 440円（税込み）



組み立て式のケースにセットして、机の上などに置いてお楽しみいただけます。ミニチュア感を楽しみながら、使用する際にも取り出しやすい立体メモです。

Café

カフェすいれん

今月のおすすめケーキ

11月 南瓜のモンブラン

キャラメル風味の生地ラム酒の効いたクリームをのせ、南瓜クリームを絞り、マカロンを添えました。



●ケーキ（単品）

486円（税込み）

●ケーキセット（ドリンク付）

788円（税込み）

12月 タルトフリーズ

アーモンドタルトの上に苺をしきつめ、苺ジャムで仕上げました。



チケット売場、館内施設（常設ミュージアムショップ、カフェすいれん）でSuica、各種クレジットカードがご利用いただけます。（ただし、一部除外品がございます。）詳細については、当館ホームページをご覧ください。

展示カレンダー [企画展示/常設展示] 2014年11月～2015年4月

休館日 土・祝日

NOV 11 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日

日本・スイス国交樹立150周年記念 フェルディナント・ホドラー展 10月7日(火)～2015年1月12日(月・祝)(企画展示室)

ネーデルラントの寓意版画 10月7日(火)～2015年1月12日(月・祝)(新館2階 版画素描展示室)

DEC 12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水

日本・スイス国交樹立150周年記念 フェルディナント・ホドラー展 10月7日(火)～2015年1月12日(月・祝)(企画展示室)

ネーデルラントの寓意版画 10月7日(火)～2015年1月12日(月・祝)(新館2階 版画素描展示室)

年末年始休館
12月28日(日)
～1月1日(木・祝)

JAN 1 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土

日本・スイス国交樹立150周年記念 フェルディナント・ホドラー展 10月7日(火)～2015年1月12日(月・祝)(企画展示室)

ネーデルラントの寓意版画 10月7日(火)～2015年1月12日(月・祝)(新館2階 版画素描展示室)

全館休館
1月13日(火)
～3月2日(月)

FEB 2 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28
日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土

全館休館 1月13日(火)～3月2日(月)

MAR 3 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火

グエルチーノ展 よみがえるバロックの画家 3月3日(火)～5月31日(日)(企画展示室)

APR 4 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木

グエルチーノ展 よみがえるバロックの画家 3月3日(火)～5月31日(日)(企画展示室)

●年末年始休館・臨時休館・臨時開館のお知らせ

*12月28日(日)～2015年1月1日(木・祝)は年末年始休館となります。

*2015年1月13日(火)～3月2日(月)は館内整備のため全館休館します。

*2015年3月30日(月)は開館いたします。

●常設展示

ロダンやプーセルの彫刻と中世末期から18世紀末頃までのオールド・マスターの絵画、モネ、ルノワールなどのフランス近代絵画と20世紀初頭までの絵画を展示しています。

(展示作品については、館内インフォメーションでおたずねいただくか、当館ホームページをご覧ください。)

※展覧会名、会期、展示内容等は変更されることがあります。

※作品の保存・貸し出し等の状況により、掲載された作品をご覧いただけない場合がございます。

国立西洋美術館

- 所在地…〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
- 開館時間…午前9時30分～午後5時30分
毎週金曜日…午前9時30分～午後8時
*入館は閉館の30分前まで
- 休館日…月曜日(ただし、月曜日が祝日あるいは振替休日となる場合は翌火曜日)
*その他、臨時に休館することがあります。
- 常設展無料観覧日…毎月第2、第4土曜日、文化の日(11月3日)
- お問い合わせ…ハローダイヤル:03-5777-8600
<http://www.nmwa.go.jp/>

※誌名について…「ZEPHYROS」(ゼフュロス)はギリシャ神話の神々のひとり、西風を司る神様の名前です。西欧では暖かさや色ざまざまの花々を運ぶ春の風をさします。

ZEPHYROS

ZEPHYROS 第61号

編集・発行 国立西洋美術館/2014年11月20日(年4回発行)
協力 公益財団法人 西洋美術振興財団
印刷 (株)アイネット



国立西洋美術館
The National Museum of Western Art